

令和6年度 学校評価の結果について(保護者への報告)

春寒の候 保護者の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、12月に実施しました本校の教育活動に関わる「保護者による学校評価アンケート」では、様々なご意見をいただきありがとうございました。今年度も「那加中コミュニティスクール」の理念のもと、那加中学校や那加第一小学校と連携した三校共通項目も設定して実施しております。これらの結果を受け、以下のことについて来年度大切にしていこうと考えております。

(1)学校と家庭・地域との連携をより深め、ふるさと教育を推進していきます

那加中学校区はあいさつを重点活動として取り組んでいます。保護者の皆様のお声の一部を紹介します。ご家庭からは「挨拶や『ありがとう』『ごめんなさい』という言葉が自然と言えるようになった。道路で車が停まってくれた時、大きな声で『ありがとうございます』と言い、お辞儀をしてお礼を言うことが身についた。(1年生)」「地域の方やその他でも挨拶をしている姿が見られた。(4年生)」など、子どもたちの成長が感じられるご意見をいただきました。しかし、一方で「旗当番や朝の集合などで、保護者に対して全く挨拶がありません。子供の安全のために保護者も頑張っていること、努力をしていることを理解し、感謝の姿勢を見せてほしいです。」「挨拶を返してくれる児童が少ないです。もっと元気よく挨拶できた方がいいなと思ってます。」など地域でのあいさつがさらに気持ちよくなるようになることを期待するご意見もあります。

今年度もあいさつを推進する取組として、学校運営協議会によるあいさつ運動(6月、9月)、あいさつを啓発する花植活動(11月)、また児童会計画委員会による挨拶活動を日常的に継続して行っています。「目を見てあいさつする」「自分から先にあいさつをする」「その場に合わせたあいさつをする」など、考えながらあいさつをしている子どもたちの姿を大切にしながら、児童が主体となって活動するあいさつ運動や指導を今後も継続していきます。また、あいさつを交わす心地よさを実感し、あいさつの輪が校内だけでなく地域にも広がっていくことを目指します。ご家庭でも、ぜひ、見まもり隊の方や旗当番の方にも進んで挨拶ができるようお声かけください。

那加三小では、昨年度に引き続き、今年度もふるさと教育を大切にしてきました。①校外学習で学んだこと、②地域の方と触れ合ったこと、③地域の施設を使って学習したこと、などを2階渡り廊下の「ふるさと那加三通り」に掲示しています。また、多くの学校おうえんボランティアの方のお力添えもいただいています。改めて、那加三小が「地域のみなさまに支えられている学校」であることを強く感じます。

地域の財産に触れて地域のよさを知ること、ふるさと那加三を大切に作る子どもを育てていきます。その活動の中で、子どもたちはきっと「たくましい心」と、「ゆたかな心」を育てていってくれると思います。

(2)子どもの安心・安全を最優先します

いじめがなく安心して学んだり遊んだりすることができる学校にするために、相手を思いやる心の育成と、自己肯定感の高揚を目指しています。そのために本年度は、いじめなどの早期発見・早期対応を目指し、タブレットを使ったアンケートも行い、同時に教育相談を丁寧に適時行いました。引き続き、年に5回の「教育相談」や「心のアンケート」等を実施し、子どもの悩みや不安に寄り添う支援に努めます。また、人権について考える人権の日の設定(毎月)や、学校全体で「よいこと見つけ」を継続するとともに、道徳の授業で相手の気持ちを考えることを通して心を育てていきます。同時に自分のよさにも気づかせ、誇りをもち自己肯定感を高めていけるよう、一人一人のよさを具体的に伝えていくことや学級・学年の頑張りの価値づけを大切にします。

また、保護者の皆様との連絡も密にし、ともに子どもの成長を支えていきます。

なお、今年度は「防災教育」にも力を入れてまいりました。昨年度の元日に起きた北陸地震は大変深刻なことでした。防災教育を改めて見直すとともに、①保護者の皆様への引き渡し訓練、②専門家による防災講話、③予告なしの「命を守る訓練」、④朝活動の時間を活用して防災学習を行うなど、大災害に備えられるように取り組んでまいりました。子どもたちの「自ら考え自分自身の身を守る力」を高めることも引き続き大切にします。そのために、児童自身が自分の身を守るができるよう、さまざまな場面を想定した「命を守る訓練」を計画・実施し、登下校や放課後の遊び方等について、具体的な指導を継続します。

(3)ICT を効果的に活用し、対話的に学ぶ子の育成に努めます

今年度も、どの子ども考えをもち、伝えあって学びを深める力を育ててきました。その結果、お子様のことについて、「勉強する習慣ができました。タブレットの操作など、学校で学習したことを自宅でもやっており、しっかり授業を受けている様子がわかります。(1年)」「タブレットを使って自分の考えを表出する力ができました。(朝の会のスピーチ、宿題など)(2年)」「授業で積極的に手をあげ、自分の意見を伝える事ができるようになりました。(3年)」「相手に分かりやすく、また相手に納得してもらえるような伝える話し方、接し方(5年)」など、成長した姿を保護者の方からたくさん教えていただきました。

今年度も、iPad 等の ICT を活用して対話的に学ぶ授業を工夫してきました。個人で調べたり考えをまとめたりするだけでなく、仲間と対話するための効果的な活用方法も多く見られました。また、教師側も子どもたちの考えの広がりや深まりを残すための活用について様々な教科で工夫し、実践を積んできました。たとえば、算数の学習で問題の考え方や解き方について画面操作と自分の声を併せて録画する機能を活用したり、国語の音読練習で録音機能を活用して自分の読みを確かめたりして学習効果を上げました。那加三小では1年生の早い時期からタブレット活用を進めており、ICT の活用は身近で、自分たちの学習に効果的なものとして位置づいています。授業だけでなく、委員会活動や学年集会等様々な場面でも活用しています。来年度も ICT 教育を効果的に推進し、一人一人が主体的に、そして仲間と共に学習する授業づくりに取り組み、さらなる学力の定着と向上、深い学びを目指していきます。

一方でタブレットの破損や修理、保護フィルムの交換などが増えてきています。12月には再度タブレットの取り扱いについて全校で確認する場を設け、保護者の皆様にも文書を配付いたしました。取り扱い方だけでなく、情報モラルについても指導していきますので、引き続きご家庭でも、情報機器使用の見届けや管理、情報の取り扱い(モラル)についての見守り・ご協力をお願いします。

(4)学校の教育活動や子どもの様子をお伝えできるようにします

昨年度に引き続き、水泳学習、運動会など、教育活動を安全に実施することができました。校外学習や外部講師を招いての学習も一層充実し、子どもたちは実際に見たり聞いたりして学びを深めることができました。また、ボランティア活動に意欲的で豊かな心を育てています。その様子は、学校のホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

来年度も、授業参観や学級懇談会を通して、保護者の皆様に参観していただいたり、保護者同士で交流していただいたりする機会も設けていきます。子どもたちが学ぶ様子や学びの足跡をぜひ見に来てください。

また学校からお子様を持ち帰る iPad には学習の足跡がたくさん残っています。特に「ロイロノート」には、作品や自分の考えをまとめたもの等多く入っております。学年によって内容や量に違いはありますが、ぜひご覧ください。